



鮮明

繊維製の文化財を担当している女子美術大学。陸前高田市広田町の「はしご虎舞」で使われた貴重な古い幕が、色鮮やかによみがえった。女子美大で修復された陸前高田市の文化財は約100点に上る＝神奈川県相模原市



工夫

陸前高田市の民具の修復に協力する岩手県立博物館の職員。津波でばらばらになった部品を集め、さびたくぎを手作りして組み立てる。展示していた当時そのままに復元しなければならず、苦労するという＝盛岡市の岩手県立博物館

貴重な文化財が津波で破損した東日本大震災。陸前高田市では、中心部の市立博物館と海岸近くの「海と貝のミュージアム」がいずれも津波に見舞われた。

二つの博物館を運営する市は、海

依頼している。

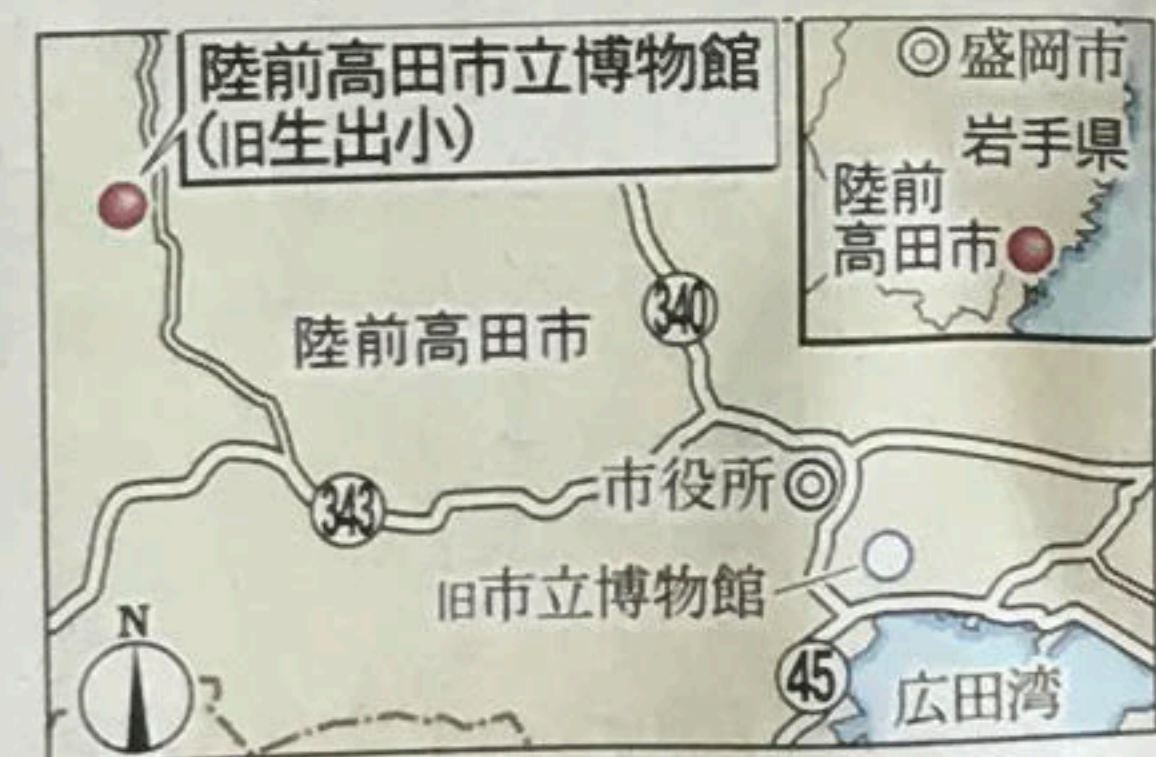
文化財修復へ奮闘

陸前高田の被災博物館

震災で受けた温かい支援が再生の原動力。「博物館をしっかりと再建することが恩返しになります」と市立博物館主任学芸員の熊谷賢さん(51)が話す。

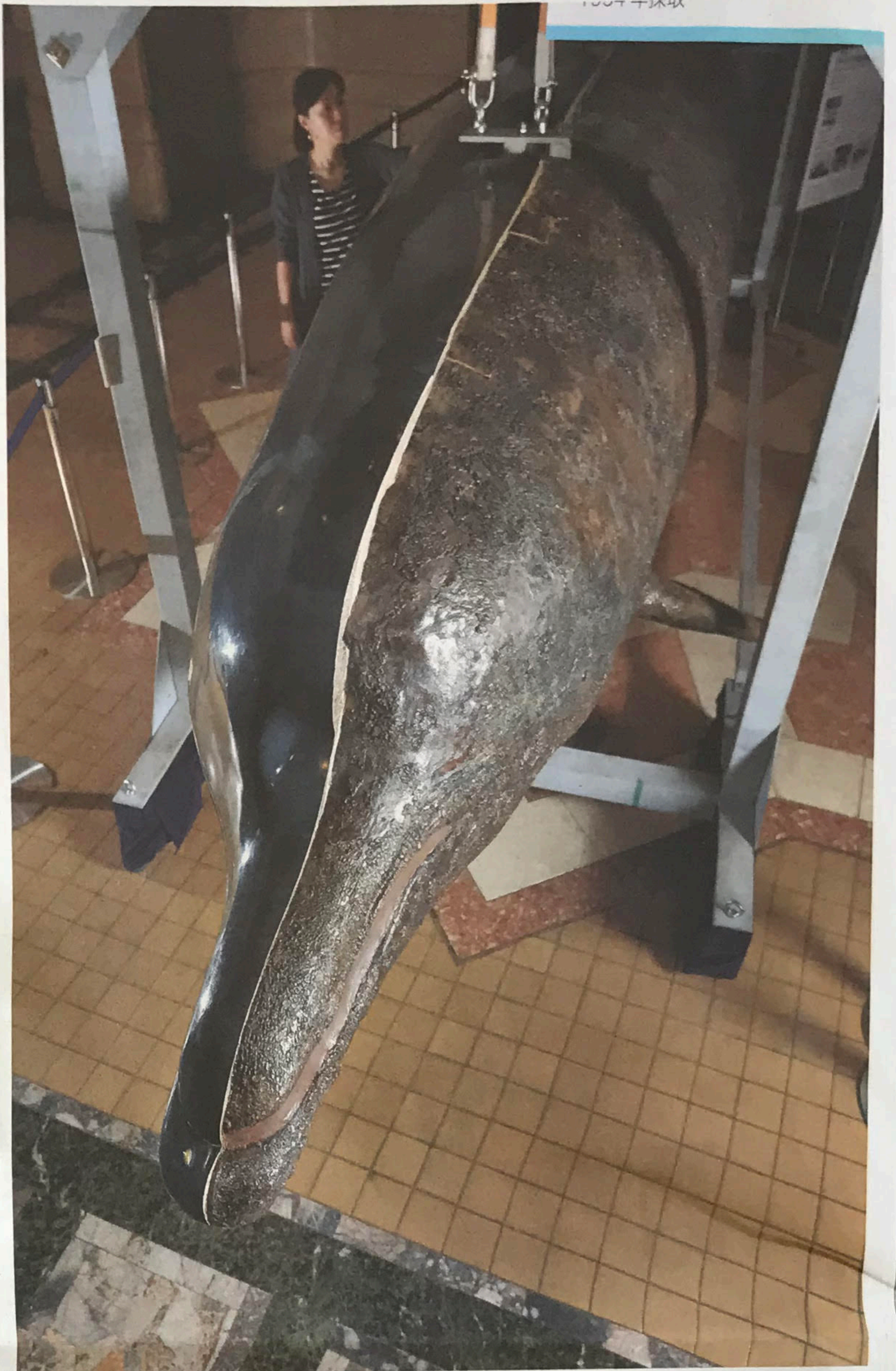
市立博物館の中の壁に掲げられているのは「文化財の残らない復興は本当の復興ではない」という言葉。博物館の再開と本物の復興に向かって、修復作業が着々と進んでいる。

(写真部・安保孝広)



威容

陸前高田の市民に親しまれていたツチワラのはく製の「つつちい」。「海と貝のミュージアム」に展示されていた。ツチワラとしては国内最大で、全長9.4メートル、重さは約1.5トンもある。もともと全身が繊維強化プラスチック(FRP)樹脂で覆われていたが、震災で破損。補修した左半身は、本来のはく製の姿を現したまま展示する予定だ。東京都台東区の国立科学博物館



着実

廃校になった小学校を活用して、修復に取り組み陸前高田市立博物館の職員。主任学芸員の熊谷賢さん(左)らが膨大な数の貝類や民具などの洗浄と修理、分類を続けている＝陸前高田市



「アングル」の写真は河北新報オンラインニュースで公開しています。紙面掲載以外のカットも見られ、QRコードでアクセスできます。